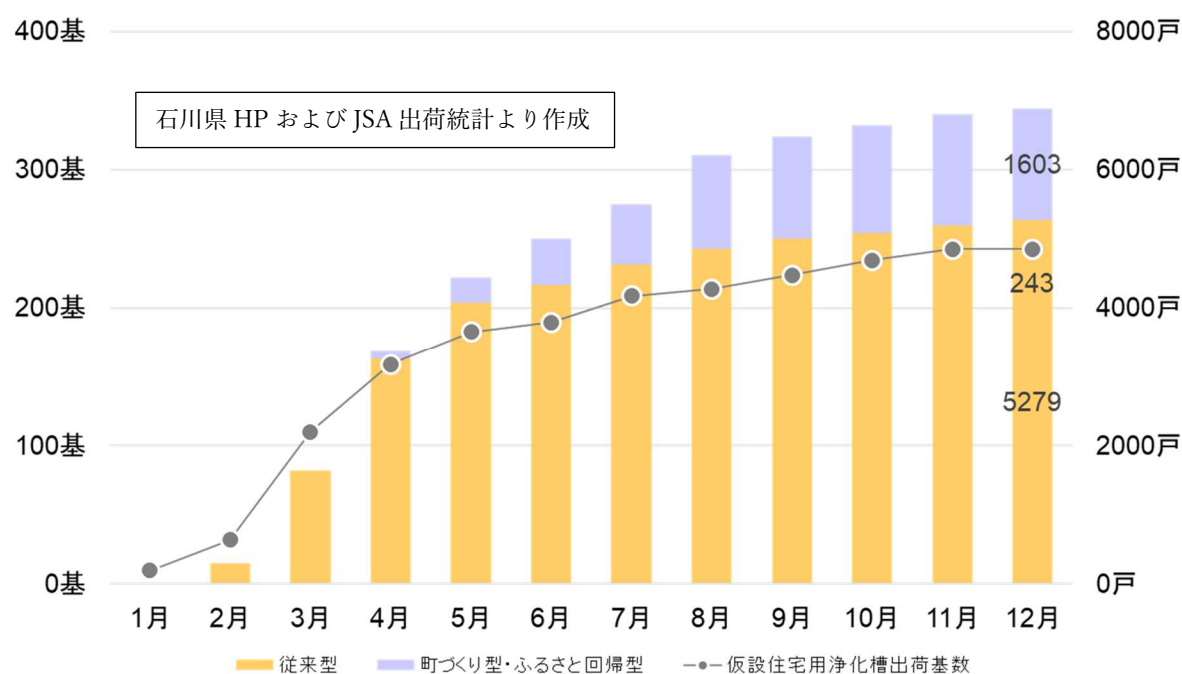


浄化槽の出荷と応急仮設住宅の整備状況、 一般住宅の入れ替え工事の様子

能登半島地震の被災者向けに整備してきた応急仮設住宅 6882 戸が 12 月 23 日に 4 か月遅れで全て完成しました。いまま豪雨災害で被災された住民向けの仮設住宅 286 戸が建設中（一部完成）ではありますが、応急仮設住宅の整備状況と応急仮設住宅向け浄化槽の出荷状況を見てみたいと思います。

仮設住宅用浄化槽の出荷基数と応急仮設住宅の完成戸数



折れ線グラフが仮設住宅用浄化槽の出荷基数、棒グラフが応急仮設住宅の完成戸数です。
またオレンジ色はプレハブ製の「従来型」応急仮設住宅、紫色は木造の「まちづくり型」「ふるさと回帰型」応急仮設住宅になります。

ポイント

- ・5 月頃まで：応急仮設住宅は避難所生活を早急に解消するための「従来型」が中心。
- ・「従来型」の浄化槽：計画生産品を地上に 1 基または複数基並列に設置。出荷基数が多くなる。
(例：120 人槽の場合、40 人槽×3 基で対応)
- ・5 月以降：木造の「まちづくり型」「ふるさと回帰型」が中心。
- ・木造応急仮設：完成まで時間があり、入居期間終了後公営住宅として利用するため、浄化槽は受注生産品を通常の施工方法で設置。出荷基数が落ち着く。
(例：120 人槽の場合、120 人槽×1 基で対応)

次に、家庭用浄化槽の出荷推移グラフより一般住宅の入れ替え工事の様子を見てみます。

石川県の家庭用浄化槽の出荷基数は月 50 基以下でしたが、地震発生から 3 カ月ほど経過した 4 月ごろより出荷基数が大幅に増加しており、この時期より一般住宅の入れ替え工事が本格化したと考えられます。

家庭用浄化槽の出荷基数推移（石川県）



今回は少し切り口を変え、出荷基数などをもとに考察してみました。
震災から 1 年以上経ちますが、引き続き能登復興のため地元企業として頑張ってまいります。